

施餓鬼(せがき)体験記

百姓養成塾・塾生のモコです。8月から色川に住み、むらの生活を体験させてもらっています。

お盆の伝統行事「施餓鬼(せがき)」に足を運びました。

「施餓鬼」とは、先祖の霊が「餓鬼」にならないように、水や食べものをお供えし、読経回向する儀式だそうです。初盆の法要も合わせて行うこともあるそう。

その儀式は、寺の本堂に施餓鬼棚を作り、棚の中央に浄水、白米を高く盛り、その前に浄水を入れた器を配します。

千年の歴史がある色川。

伝統的な「むら」の暮らしは、家族はもちろん、周りの人々とも支え合って営まれています。

こうした儀式には、他者への慈愛や、食べものへの感謝など、先人の教えが凝縮されているような気がしました。

こういった儀式が今なお継承されている色川の歴史の深さを改めて実感しました。



施餓鬼棚。

右から山のもの、そうめん、白米、海のものをお供えする。手前にあるのは、浄水とナスを刻んだもの。



施餓鬼の時の食事。「おまぜ」はむらの伝統食で、施餓鬼の時には、必ず出される料理だそう。



法要の様子。各区で行われている。



皆で念仏を唱えているところ。